



縮小の時代の都市形態の研究 -----ファイバーシティ／東京2050、長岡2050-----

こんな問題に取り組んでいます

人口が減少し、高齢化が進み、環境問題が深刻化するなか、日本の都市は縮小が避けられません。縮小は放置すると社会の活力を失います。われわれは、縮小を真正面から受け止め、都市計画と建築を統合する視点から新たな視点を提供しています。

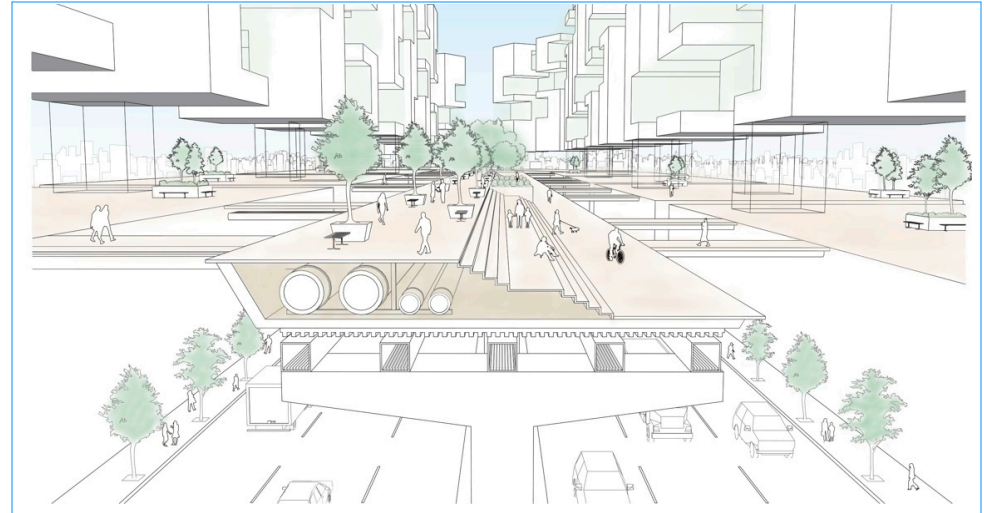
こんなことがわかってきました

私達の主な活動は分析とデザインです。私達の基礎概念として2005年に「ファイバーシティ」の概念を提示し、国際的に大きな反響を得ました。対象は、2005年には首都圏、2011年には長岡市（地方中都市）の将来像を提示しました。

研究の成果はこんな分野に活かされます

ファイバーシティは、20世紀の近代都市計画に替わるべき計画思想として提案されていますので、都市計画、建築計画に留まらず、社会学、地理学、政治哲学など広く諸分野に関わります。

連絡先： 東京大学 大学院新領域創成科学研究科 社会文化環境学専攻
大野秀敏 <ohno@k.u-tokyo.ac.jp>



GREEN WEB

首都高のコンバージョンによる、緊急救援路の確保と、都心部の熱利用管理のためのネットワークの構築

